

新書紹介

わがまち——その財政

コミュニケーション四七号

地域社会研究所 九三頁 二〇〇円

この本は季刊誌だが、内容が大変わかりやすいし、それに読んでみてなかなか面白かったので、紹介することにした。この本の発行母体である財団法人地域社会研究所は、第一生命が基金を提供して、昭和三十八年にできたもので、雑誌『コミュニケーション』がこれまで四九冊、『高年齢を生きる』が九冊のほか、コミュニケーション叢書として、第一生命の従業員調査や、神奈川県大井町の地域社会その他を対象とした実態調査報告書が七冊刊行されている。

本書は三部から構成されている。まず巻頭に、新聞記者の五十嵐富英さんの「地方財政を考

える」という報告（レポート）があり、そのレポートをたたき台にして、「財政面からみた地方自治」という四〇頁にわたる座談会がつきにくる。五十嵐さんが司会役で、出席者は恒松制治（島根県知事）、大下勝正（町田市長）、加藤芳太郎（元都立大教授）、門間薫吉（創価大教授）の諸氏である。第三部は同じ門間さんが「地方自治確立の問題」という論文を寄せている。

五十嵐さんの現職は、日本経済新聞社地方部の次長だが、以前八王子支局長のとき、町田市政をテーマにしたユニークな本を書かれたし、門間さんは八王

子在の大学の先生で、その人たちが大下町田市長をかこんだ座談会だから、わが町というの

は、地方自治体と政府の関係、同じく住民との関係について体験談が語られ、ついで歳入、歳出の両面にわけて、歳入では、税の不公平感とか、住民税の税率、地方債の発行限度額などの問題、歳出では、人件費問題、福祉行政、国と地方の分担整理などの問題がまんべんなくとりあげられている。

自治研』のここ二、三年の連載論文はその好例)、ここでも住民自治の観点から、地方財政問題に焦点をあてている。情報の公開という側面からの問題提起は、われわれにも耳の痛いところであるし、それだけに実践的な意味を持っている。なお本書は地域社会研究所(千代田区有楽町一丁目第一生命館)へ直接郵便為替(東京四一三七四〇四番)で二〇〇円(送料無料)送付すれば送ってくれるし、当研究室にも保存してあるので、利用して頂きたい。

企画調整局都市科学研究室
副主幹 青木 虹二

五十嵐さんのレポートは、はじめに地方財政のしくみをおのべ、ついで四十九年秋からの地方財政危機にたいする政府と地方の対応を概括したあと、今後の展望として、行政範囲と順位の確立がなされなければならないと提言している。座談会の方

しめくりの門間さんの論文だが、もともと門間さんは実証的なてがたい論文を書く研究者として知られているが、『月刊